

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No. 68

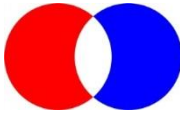
2014-2-4

한일 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- P 1 事務局通信
P 2 日韓交流史講座VI
P 4 お知らせ

統括幹事：後藤和晃
日韓交流史フォーラム
事務局

事務局通信

사무국 통신

事務局統括幹事

後藤和晃

韓国への修学旅行は、ぜひ継続を！！

～ 氷河期？の日韓関係に思う ～

「最近の日中韓3国の関係は氷河期と言っても良さそうですね!？」と或る人が言いました。確かに日韓の関係は、竹島(独島)や慰安婦問題できしみ続け、一方の日中も尖閣列島や阿倍首相の靖国参拝で緊張が、ますます高まっています。

こんな状況の中、心が痛む話が伝わってきました。去年の一年間、韓国から日本を訪れた観光客は前年より30%前後増えたのに対し、日本から韓国に渡った観光客は20%以上減ったというのです。問題は日本からの観光客が減った内容で、目立って減っているのが団体旅行、とりわけ高校生の修学旅行だということです。これからの日韓交流の主役となる若い世代が隣国と触れ合う絶好の機会が激減しているのは残念!としか言いようがありません。韓国への修学旅行が減っている背景には、学校やPTAの関係者たちが万一、現地トラブルが発生したらと神経をとがらせている様子が透けて見えます。

阿倍総理大臣は自己の信念に基づいて靖国参拝を行ないましたが、こうした状況を良しとは思っていないはずです。総理には、未来指向的な立場から教育関係者や高校生の父兄たちに、こう働きかけて欲しいのです。「高校生諸君は、領土問題などとは係わりなく隣国を理解するための修学旅行は、韓国であれ中国であれ、遠慮なく出かけて行ってほしい。そうした地道な積み重ねが、やがて東アジア3国の望ましい関係づくりに役に立つのではないかと」。

韓国語での挨拶も出来る愛知県の大村知事は、かねがね日中韓3ヶ国の市民交流の重要性を主張されてま

す。大村知事にも県内の高校の関係者に韓国などへの修学旅行を、ぜひ継続するよう働きかけて頂きたいと、要請するものです。

そして何よりも教育関係者の皆さんに申し上げたいのは「韓国を理解するための団体旅行で、深刻なトラブルが発生するようなことは100%有りえない」ということです。これは過去16年間にわたって数えきれないほどの団体旅行を韓国各地で行なってきた私たちの経験から言えることです。

好奇心を持って訪れる高校生たちを、韓国の生徒や市民が歓迎しないはずがありません。日本の高校生の韓国などへの修学旅行は、ぜひ継続していただくよう強く要請するものです。



韓国語で新年の挨拶をされる愛知県・大村知事

日韓交流史講座(VI) のご案内

日韓交流史フォーラム

韓半島は古来、大和に人や文化を送り込む文化回廊とされてきました。その韓半島に向け、大中国の最先端情報を送り出す窓口が、まさしく韓半島の横腹に匕首(あいくち)を突きつけたような山東半島でした。

日韓交流史フォーラムの今回は、大和への情報の起点だった山東半島をテーマに、ここから人や稲作、仏教、鬼神信仰など多彩な情報が伝わってきたことを学び現地を旅します。同行解説は、日本考古学会の前会長で、これまで 旧満州や壱岐・対馬、それに伯耆・出雲などへご一緒いただいた 西谷 正 先生です。ご期待ください。

講座スケジュール

- ① 4/27 (日) 考古学で見る山東半島 前日本考古学会会長 西谷 正 氏
～ 人骨・稲作・支石墓 ～
16:00 ～ 17:30 名古屋国際センター3階 第二研修室
- ② 5/25 (日) 鬼神がやってきた道 奈良大学教授 千田 稔 氏
～ 兵主神と彼を運んだ人々 ～
15:30 ～ 17:00 名古屋国際センター3階 第一研修室
- ③ 6/21 (土) 慈覚大師 円仁と張^{ちゃん}保^ぼ阜^こ 京都・毘沙門堂執事長 小林 祖 承 氏
～ 山東半島の出会いが救った叡山密教 ～
15:30 ～ 16:50 名古屋国際センター3階 第三研修室
- ④ 7/27 (日) 山東半島の近 現代 日比谷高校教諭 武井 一 氏
～ 侵略の荒波を越えて ～
15:30 ～ 16:50 名古屋国際センター3階 第一研修室
- ⑤ 日程(打合せ中) 山東半島の歴史を歩く 4泊5日 程度

4回の講座のポイントだけ紹介しておきます。

第1回目の「考古学で見る山東半島」では、半島の北岸にある煙台で発掘された稲作遺跡について、まず学びます。揚子江流域の稲作が北上して山東半島に伝わり、ここから韓半島そして北九州へという稲作渡来のルートを考えている人が多いといえます。さらに、半島の付け根に位置する臨淄(りんし)遺跡からは 山口県の土井ヶ浜から出土した人骨と瓜二つの人骨が数えきれないほど出土しており、彼らの仲間や子孫が当時の先進文化と共に韓半島を経て、日本までやって来たと見る学者もいます。また、その近くに屹立する泰山(1583m)は中国一の聖山とされていますが、仏教遺跡も多く 山中至る所に磨崖仏が掘り込まれています。磨崖仏に手を合わせる文化は、東の海を渡って韓国の忠清道の海岸に、ほほ笑む磨崖仏として有名な 瑞山石仏 を生み、そして古代日本にも伝わってきました。



第2回目「鬼神がやってきた道」では、かつて奈良の藤ノ木古墳から出土し、世界一精緻で美しいと

された鞍金具に組み込まれていた鬼神が、山東半島から韓半島を経て、古代大和まで渡来した神だった事を論証していただきます。講師の 千田 稔 先生によれば、山東半島に端を発する神々のうち、鬼の姿で表現される兵主神(ひょうずのかみ)と地主神は、確実に西日本各地に渡来し、奈良や滋賀の神社に祀られているといます。中国の学者の見解では、鬼神である兵主神とは元来、青銅兵器づくりに長じた部族の猛将で伝説の名帝、黄帝と斗い、最後は殺された 蚩尤 (しゅう) が神となった姿なのです。



蚩尤(漢代の石刻画)

千田先生は 兵主神を古代日本にもたらしたのは、青銅兵器の製造に長け航海の技に秀れた集団も傘下に置いていた渡来人グループと考え、それは秦氏一族であろうと推定しています。いずれにしても山東半島で生まれた鬼神信仰が、はるばる大和に至り、その後 日本各地の民家の屋根に鬼瓦となって人々の暮らしに根づいているとしたら、これも歴史のロマンのひとつと言えるでしょう。

第3回目「慈覚大師 円仁 と張保臯」は、

叡山から天台密教の奥儀を学ぶべく唐に渡った円仁(後に延暦寺3代座主)は、留学僧の資格を持っていなかったため、日本に送還されそうになった所、山東半島の赤山で新羅人の大貿易商でもあり、武将でもあった 張保臯と出会い、以来彼の手厚い庇護のもと9年間、唐で密教の奥儀を学ぶことができたのです。帰国した円仁は華麗な天台密教の儀式を執り行なうことで、京の天皇や貴族たちから、これ以上はないというほどの信認を得て、日本で初めて慈覚大師という大師号まで与えられました。円仁は比叡山の中腹、横川(よかわ)に赤山明神を祀り、生涯 山東半島赤山で張保臯をはじめとする新羅人たちから施された恩恵を一生、忘れなかったと言われています。



山東半島・赤山法華寺

第4回目「山東半島の近現代」は、近・現代の山東半島が 清帝国が弱体化する中、列強が侵略する舞台となったこと、日本もまた日清戦争や第一次世界大戦、そして太平洋戦争に至るまで、この半島に度々出兵したことを学んでおきたいと思えます。山東半島にある青島や威海、煙台、済南などの都市や港には日本軍の砲火がとどろいた記憶が残っています。



千仏山の磨崖仏

このシリーズ第5回目は、現地への5日間の歴史紀行です。旅行のメインテーマは“古代の山東半島と日本の係わり”ですが、やはり近現代の山東半島と日本の交流史もしっかり視座に入れて旅行したいと思っています。

お知らせ 通知

1. 日韓市民ネットワーク・なごや第17回総会のご案内

日時： 4月27日(日)
 14:30 日韓市民ネットワーク・なごや第17回総会
 15:30 (休憩)
 16:00 日韓交流史講座 VI ① 考古学で見る山東半島
 18:00 講師を囲んで懇親会

会場： 名古屋国際センター3階 第二研修室 ※懇親会会場は未定

2. 2014年度 会費の納入をお願いいたします

同封の振替用紙に住所・氏名ご記入の上、郵便局よりお振込みください。

年間会費 一般成人 4000円 学生 2000円

加入者名 日韓市民ネットワーク・なごや 口座番号 00830-4-36485

3. 日韓交流史講座(VI) お申込みのご案内

講座受講希望者は、同封の葉書に住所・氏名ご記入の上、ご返信下さい。

受講料は、資料代も含めて ¥ 10,000 です。

同封の振替用紙にて、3月末までに お振込みください。